

第四期「板橋区子ども読書活動推進計画」検討委員会 要点記録

会 議 名	令和6年度 第1回 第四期板橋区子ども読書活動推進計画検討委員会
開 催 日 時	令和6年11月14日(木) 15時30分から17時00分まで
開 催 場 所	区役所北館11階 第二委員会室
出 席 者	19人 [委員] 山口委員長、鈴木副委員長、東委員、松本委員、 坂田英子委員、坂田敦子委員、水野委員、藤井委員、 児玉委員、田倉委員、雨谷委員 ※井上委員欠席 [事務局] [区] 保育運営課長 子育て支援課長 学務課長 指導室長 中央図書館長 [地域図書館代表] 清水図書館長、高島平図書館副館長、 東板橋図書館長
会議の公開(傍聴)	公開(傍聴できる) 部分公開(部分傍聴できる) 非公開(傍聴できない)
傍 聴 者 数	2人
議 題	1 開会及び委嘱状の交付 2 教育長挨拶 3 委員の紹介 4 委員長の選出及び副委員長の指名 5 報告 (1)第四期計画の基本方針・目次構成及び検討委員会開催スケジュールについて (2)第三期 計画の進捗状況について (3)読書に関する各種調査の実施結果について 6 議題 (1)「本に興味のない子へのアプローチについて」意見交換
配 布 資 料	資料1 検討会開催スケジュール 資料2 第三期計画の進捗状況 資料3 調査報告書概要版 資料4 第四期板橋区子ども読書活動推進計画策定方針 資料5 目次構成 資料6 構成員名簿 参考1 第四期板橋区子ども読書活動推進計画検討委員会 設置要綱 参考2 第四期板橋区子ども読書活動推進計画検討委員会 傍聴規定 参考3 令和6年度第1回タウンモニターアンケート結果報告書「子どもの読書活動推進について」
所 管 課	教育委員会事務局 中央図書館(電話 6281-0291)

<p>会議状況 (会議概要)</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会・委員の委嘱 中央図書館長から、委嘱状机上交付説明がなされた。 2 教育長挨拶 教育長から、開会の挨拶があった。教育長は公務につき退席。 3 構成員（委員・事務局）の紹介 委員は自己紹介を行い、中央図書館より事務局員紹介を行った。 4 委員長の選出及び副委員長の指名 出席委員の互選により委員長を選任、また、委員長の指名により副委員長を選任した。委員長に山口委員を選出、副委員長に鈴木委員を指名した。続いて、委員長より傍聴規定の決定及び許可があり、傍聴人2名が入室した。 5 報告 中央図書館長より、以下の（１）～（３）について、資料・スライドを用いて説明を行った。 <ol style="list-style-type: none"> （１）第四期計画の基本方針・目次構成及び検討委員会開催スケジュールについて（資料４・５・１） （２）第三期計画の進捗状況について(資料２) （３）読書に関する各種調査の実施結果について(資料３) 6 議題 「本に興味のない子へのアプローチについて」の意見交換を行った。 [主な意見] ①昨年から小学校で週２回 15 分の朝読書を開始した。今年度は総合的な学習の時間の一環で、４年生の子どもたちが保育園で読み聞かせを行っている。異年齢での読書活動は、子どもたちがとても意欲的に取り組む、また受け手の園児たちも楽しそうにしていた。この活動を広げていきたい。 ②朝読書などの環境が大事で、その環境にだんだん慣れてきて本を選んだりページをめくるようになる。 ③区立中学校は 22 校ある。そのほとんどが朝読書をしているので、全く読書しないのは考えにくい。調査結果をみると読書の好き嫌いについて年齢が上がるにしたがって好きな子どもの割合が減っている。興味のない子どもはあまり少なく、中学生は興味がスマホ、インスタ、YouTube など、本以外のものに移っているのが実態ではないか。そのため、読書が本当に嫌いな子どもはそんなにいないのではないかと。 ④身近なところに絵本がある環境が大事な視点である。アンケートでもあったように、小さい頃の読み聞かせの経験が読書が好きだということにつながるので、子どもや保護者への支援を乳幼児期から行っていきたい。 ⑤子どもが絵本に興味を持ってもらうには、乳幼児のお母さんが絵本に興味を持ってもらうことから始まると思われる。 ⑥ブックスタートの配付率が６割程度に留まっている。貴重な読書の機会であるブックスタートの配付についてはもう一度検討されてもよいのではないかと。 ⑦不読率の件は、どんな本でも良いが、必ず本を読む時間である朝読書がとても大事だと思う。本に触れる機会がたくさんあるということが大
------------------------	---

	<p>事ではないか。</p> <p>⑧図書館や児童館に来る子供も一握りだと思うので、学校図書館が大事だと思う。読書の環境はとても充実してきているが、それを手渡す人がいない。特に学校図書館では学校司書の方が一人一人の生徒のことを分かって、その子に手渡せるような環境が必要だと思われる。</p> <p>⑨ブックスタートでは、本を与えるだけ渡すだけではなく、本を読む時間を支援する。この支援が親子読み聞かせに繋がる。子どもが幼いころ本を読んでもらった記憶や経験は幸せの記憶としてパッケージされていくのでそういう時間をたくさん創出する環境が大事である。また、アンケートにおいて、途中までで本を読まなくなった子どもが低学年でも20%近くいる。本に出合えていないというような状況がとても多く見受けられ、子どもが心を動かす本に出合えるために公立図書館の司書や学校司書が手渡す人として必要である。</p> <p>⑩本への関心を高めるのではなく、本を使うたくさんの機会を創出する環境を作る。絵本から幼年童話などの次のステップにつながっていかない。想像力や連想力などを高めていくための手段、次のステップに行くための機会やチャンスというものを、みんなが持てるような環境をどのように作っていくのかを話し合っていきたい。</p> <p>⑪子どもへのアプローチだけでなく、保護者や大人へのアプローチが大事である。</p> <p>⑫子どもには幼年童話や文学作品を読んでもほしいなど、多くの方は思うだろうが、なかなか接続せず、多くの保護者や学校関係者は悩んでいると思う。児童文庫を学級文庫に置かない方もいるかもしれないが、読書の貴重なきっかけになると思うので、広く見て手渡してもよいのではないか。</p> <p>⑬自分が読んだ本、買った本が、どういうふう面白かったということを人に伝えること、それをプレゼントしたり、手渡したりするような機会をたくさんつくること、そうやって不読率を低減できればと思う。</p> <p>[まとめ] 本日は、3つの策定方針のうち、「1 子どもの視点に立った取組を実施し、読書の習慣化をめざす」「2 身近な人々の協力によって、子どもが自由に本と触れ合える環境をつくる」に対する意見を多くいただいた。今後「3 多様な子どもたちに適応した読書に関する制度・施策を整備する」についても意見を出し、また絵本のまち板橋のブランド戦略も含めて第四期板橋区子ども読書活動推進計画を策定していく。</p> <p>7 事務局庶務より今後の予定等事務連絡 次回会議は令和7年1月9日（木）14時から16時を連絡。</p> <p>8 閉会</p>
	<p>会議の要点は、以上のとおりである。</p>